

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672600117
法人名	社会福祉法人 空心福祉会
事業所名	グループホーム えるむ
所在地	京都府福知山市字天田小字大塚14-1 (電話) 0773-24-2256

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年6月25日
評価確定日	平成21年8月24日

【情報提供票より】(平成21年 5月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板茅平屋 造り 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	---------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	28,600 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要(5月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	82 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大西内科医院 ヒガン整形外科クリニック 久世歯科篠尾医院 昭和町吉見歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR福知山駅から少し離れた山や田んぼが多く残る自然に囲まれた当該ホームは、法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと併設しています。ISO9001:2000を取得しサービスの品質管理を組織的に行っているだけではなく、利用者の住まいとして、家庭的なぬくもりと生き活きたした暮らしを支援しています。入居後に地域のサークル活動を始めた利用者がいたり、昔馴染みの仕事ができるように漬物や干し柿作りや菜園作りにも力を入れ、個々の生活歴を活かし楽しみ事となるよう支援しています。また、ホームは開放的で、いつでも外に出ることができる環境にあり、職員は見守りながら自由な生活を守ると共に、日々の買い物や散歩、季節毎の外出など外に出る機会が多く持てるように取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果、伝達研修を行ったり、小学校や保育園との交流、家庭菜園の充実などに取組まれました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、常に現場で職員と共に仕事をし、現場を把握している管理者が自己評価を記入し、職員全員に意見をもらい取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員や地域包括センター職員、民生児童委員、家族、施設長、法人本部事務長、部長をメンバーとする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。事業計画に基づく進捗状況やホームの行事や事故、研修の受講状況などを報告し、意見交換を行っています。民生委員からは地域の認知症介護について困っている事の相談を受けたり、小豆の選別をホームで請け負うなど、地域貢献のきっかけにもなっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1度の家族アンケートや運営推進会議に参加、来訪時に直接意見や要望を聞く機会があります。意見等が得られた時は、苦情報告書を作成しその内容について職員間で話し合い対策を考え、家族に報告し実行に移すことが定着しており、サービスの向上に活かされています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	地域的なこともあり、併設する法人の施設との単独の自治会が作られています。日常の散歩や買い物の際に挨拶を交わしたり、夏祭りには近隣の3~4ヶ所の自治会から自治会長に来てもらうなどの交流があります。市の広報を見て文化祭に出かけたり、中学校の職場体験の受け入れ、小学校の授業参観に行く等様々な形で地域とのつながりを大切に支援しています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の基、毎年度事業所の事業計画が立てられ、その中のサービス目標をホームの理念としています。毎年職員全員にアンケートを実施し、個々の思いを集約しており、利用者の心身機能を発揮し尊厳ある暮らしを守ることと、家族や地域とのつながりを大切にすることを理念としています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関には、法人の理念がタペストリーにして掛けられており、事務所にはホームの理念を掲示しています。理念がサービス目標となっており、目標に向けて月間目標を立て、毎月職員会議で前月の目標についての振り返りと翌月の取り組みについて話し合い、実践につなげています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域的なこともあり、併設する法人の施設との単独の自治会が作られています。日常の散歩や買い物の際に挨拶を交わしたり、夏祭りには近隣の3～4ヶ所の自治会から自治会長に来てもらうなどの交流があります。市の広報を見て文化祭に出かけたり、中学校の職場体験の受け入れ、小学校の授業参観に行く等様々な形で地域とのつながりを大切に支援しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、常に現場で職員と共に仕事をし、現場を把握している管理者が自己評価を記入し、職員全員に意見をもらい取り組みました。前回の評価の結果、伝達研修を行ったり、小学校や保育園との交流、家庭菜園の充実などに取り組みました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や地域包括支援センター職員、民生児童委員、家族、施設長、法人本部事務長、部長をメンバーとする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。事業計画に基づく進捗状況やホームの行事や事故、研修の受講状況などを報告し、意見交換を行っています。民生委員からは地域の認知症介護について困っている事の相談を受けたり、小豆の選別をホームで請け負うなど、地域貢献のきっかけにもなっています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回、市が主催する地域密着型サービス事業所懇談会があり、市からの連絡や他事業所の運営状況を聞く機会があります。研修案内をもらったり、相談しやすい関係が構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にコミュニケーションをとり、ホームでの様子を伝えています。「こちらえるむです」という個別の便りを2ヶ月に1回発行し、一人ひとりの暮らしぶりを記入し、写真をたくさん掲載することで家族にもわかりやすく伝えています。金銭管理は立替制で行っており、出納記録と領収書を毎月送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族アンケートや運営推進会議に参加、来訪時に直接意見や要望を聞く機会があります。意見等が得られた時は、苦情報告書を作成しその内容について職員間で話し合い対策を考え、家族に報告し実行に移すことが定着しており、サービスの向上に活かされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員にアンケートをとり、それぞれの思いや意向を聞いたり、日々管理者は職員とコミュニケーションを図ることでストレスが溜まらないように配慮し、離職を防ぐよう努めています。新任の職員には、個々の利用者の状況を説明した上で1ヶ月間は馴染みの関係ができていない職員と行動をともにしながら、新たな馴染みの関係を築くようにし、利用者に影響のないようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成委員会があり、研修を計画的に行っています。外部研修については、参加できる職員が偏ることなく受講できるように配慮し、勤務内で研修を受けることができる体制もあります。研修の受講後は、報告書と資料を職員全員が回覧できるようにし、内容によっては伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府内のグループホーム連絡会に入っており、年3回ほどの集まりがあり、勉強会や意見交換会、交換研修に職員が参加しています。福知山市の地域密着型サービス事業所懇談会には、管理者が参加し事業所の見学会や情報交換の場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度も見学に来てもらったり、ホームからも訪問をして事前に情報を得るとともに、顔を覚えてもらうなどの働きかけをしています。入居後には得た情報を基に環境を整え、担当の職員を中心に徐々に馴染めるように支援しています。また、家族との連絡も密にし、来訪してもらったり本人とも直接電話で話してもらいなど、入居後も家族とのつながりが途絶えないという安心感を持ってもらえるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす姿勢を持ち支えながら、調理や菜園作り、干し柿や梅干作りなど様々なことを教えてもらう機会があります。利用者の自然な感情を受け入れ、大きなトラブルにならないように配慮しています。新任の職員が利用者の言葉に励まされる場面もあり、支え合う関係が作られています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には多くの情報をもらい、センター方式を利用し始めて一人ひとりの思いや意向について捉えています。コミュニケーションの困難な方には、表情や行動からその思いをくみ取り、ケース会議でも検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	独自のアセスメント方式と使い始めたセンター方式をアセスメントとしています。家族の意向を事前に聞き、担当職員や介護支援専門員、看護師等から意見を持ち寄りケース会議を行ない、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後は1ヶ月の期間で見直し、その後は個々の利用者の状況に合わせて3~6ヶ月の期間で介護計画を見直しています。その都度アセスメントの見直しや担当職員と介護支援専門員が3か月ごとに評価を行っています。10日に1回のモニタリングは介護計画の一部の実施状況になっており、全体のモニタリングにはなっていません。	○	モニタリングは介護計画全体の実施状況や見直し、振り返りにつながることが望まれます。日々の記録を介護計画と関連付けて記入したり、モニタリングのあり方について再検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院に行ったり、専門医の受診同行、誕生日の外出など利用者の希望や家族の状況に合わせた支援をしています。また、利用者の趣味を活かして、フラワーサークルに入会し通い続けることができるよう支援しています。併設する施設で配偶者が亡くなった時に、お見送りに一緒に行くなど利用者の思いを大切に柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談してかかりつけ医を決めています。専門医をかかりつけ医としている利用者の受診には、同行することが多く連携が取れています。併設の施設の診療所に土曜と日曜以外に提携医が毎日来ており、少なくとも月に1回の受診ができるように支援しています。状況に合わせて週に3回点滴を受けたり、24時間連絡できる体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人で定められた重度化及び看取りに関する指針について、入居時に説明を行ない同意を得ています。ホームでの看取りの経験はありませんが、重度化がみられた時には、医師と家族、看護師、職員で話し合いを重ねながら、同じ方針を持ち取り組んでいます。併設する施設への転居の希望もあり、本人にとって良い方向で家族をはじめ、関係者と話し合っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言や優しい言葉遣いを心がけています。言葉遣いや接遇について職員アンケートを行ない、職員会議で時間をかけて話し合い、意識を高めて日々の対応につなげています。日々の記録は個室になった事務所の目につきにくい場所に保管し、そのほかの個人情報の記録は、鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は自然に起きて来られる方や声かけの必要な方もおり、それぞれの方に合わせた支援をしています。朝食後の時間に体操を行ない、一日をどのように過ごしたいかを聞き、外出等を決めています。掃除や洗濯など自然に一日の流れがありますが、その都度一人ひとりの希望を尊重し、過ごせるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の副食を併設の施設から運ばれてくる以外は、ホームで買い物から調理、後片付けまで利用者と職員が一緒に行っています。日毎に食事当番を決めて、順番に食事に携われるように配慮し、利用者が楽しみながら手伝ってもらえるようにしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日の午後に同性介助で入浴できるよう支援しています。希望や状況に応じて毎日入浴したり、全身清拭への変更、入浴剤を入れるなど、個々に合わせて対応しています。入浴拒否される利用者にも、声のかけ方やタイミングを図り、気持ちよく入ってもらえるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念にも利用者の心身の能力を発揮できるようにと掲げられており、できることを続けながら暮らしていくための支援を心がけています。調理などは日毎に役割を決めたり、畑の手入れや洗濯物を干したりたたんだり、生活の中で役割を発揮できています。また、生け花や歌を唄ったり、手芸など楽しみごとを続けていけるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物、時には近隣に住む友人に会いに出かけるなど、日々日常的に戸外に出かけています。また、季節ごとにイチゴ狩りや温泉、蛍狩りなどに出かけ楽しまれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関だけではなく、リビングや居室からも外に出ることができるようになっており、どこにも鍵をかけずに利用者の行動や状況に合わせて、常に見守りを行っています。職員には鍵をかけないケアについて理解を得て、利用者の自由な生活を支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、併設の施設と合同で災害訓練を行っています。訓練は昼夜を想定し、併設の施設からの協力体制はあります。また、水や非常食の備蓄をしています。地域の方々の協力を得るような働きかけには至っていません。	○	避難訓練の際に地域の方と一緒に消火器の使い方を体験する機会を持ったり、運営推進会議で議題とし話合うなど、更にホームを知ってもらい協力が得られるような働きかけに繋がっていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立を基本とし、栄養バランスの考えた食事となっています。毎回の食事量や必要に応じて水分量をチェックし記録に残しています。個々の状況に応じて、捕食や刻み食、粥にも対応しています。栄養状態は、毎月の体重測定や3ヶ月に1度の血液検査で把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋造りで天井が高く、天窓や窓が多く明るいリビングには、テレビを見るためのソファや外を見ながら寛ぐことのできるスペース等があり、利用者は思い思いの場所で過ごされています。真ん中に大きな木のぬくもりが感じられる柱があり、家具やタペストリーからも家庭的な雰囲気が感じられます。また、季節の花が飾られ、食卓はその時々テーブルの位置を変え落ち着いて過ごせるよう工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は自分の家と思い、今まで使い慣れたものを持ってきてもらい、家族や本人と相談して配置を考えてもらっています。実際には、たんすや布団、ドレッサー、テレビ、机、椅子などを持ち込んでもらっており、それぞれに写真や自身で作った作品を飾り、その人らしい居室になっています。また、ベッドだけではなくカーペットを敷き床に布団を敷いて休む利用者も以前におり、個々の生活に合わせた対応もしています。		